１年生向け記事
２年生向け記事
３年生向け記事

進路通信 COMPASS

Vol.22　2023年6月 号

進路指導室から

進路を考える上で、自分の10年先、20年先がどうなっているのか、どうなっていたいのかを考える必要があります。科学技術の進歩はすさまじく、今ある職業も10年後にはなくなってしまっている可能性もあります。そういう意味で、社会に出てすぐに役立つことを学ぶことだけが進路を考えることだとは言えなくなっています。今やりたいことは何なのか、興味があることは何なのか、それを学ぶとどのような可能性があるのか……皆さんが考えるべきことはたくさんあります。ただ、一人で考えていると袋小路にはまってしまうこともあります。そんな時に、担任の先生だけでなく、進路指導室にも相談に来てみてください。進路指導室には資料もたくさんそろえてあります。何気ない話から考えるきっかけが生まれることもあります。まずは進路指導室の扉を開けてみてください。

（学習・進学指導部長　小関　吉直）

理系・文系について

先日、科目選択希望の第1次調査用紙が配付されました。1年生の皆さんはこれをきっかけに、自分が理系なのか文系なのかを考え始めるところでしょうか。2年生の皆さんは、今年度から理系・文系に分かれて授業を実施していますが、さらに細かく、自分がどのような分野を専門にしたいかについては、引き続き考えるというタイミングかもしれません。ここでは、そういったことを考える材料になればと、理系・文系の分野についてのことを少し述べてみたいと思います。

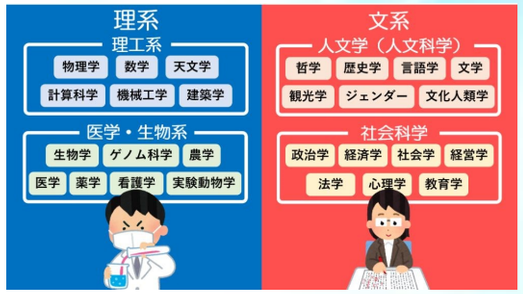
大学での専攻分野（あるいは受験科目）は、大きく分けて理系と文系に分かれます。理系に分類されるのは主に理学系（数学・物理学・化学・生物学・地学など）、工学系（機械工学・電気工学・情報工学・経営工学・建築学・土木工学など）、医学・獣医学系、農学系などがあります。かつては、家庭の意向で理系に進ませてもらえない人が、家政学（いわゆる家庭科）を専攻した、という話もあったようです。

一方で、文系に分類されるのは経済学や経営学、法学や政治学、哲学といった中学・高校での「公民」にあたる分野、史学や地理学などの「地理・歴史」にあたる分野、国文学や日本語学などの「国語」にあたる分野、英文学や英語学、あるいは英語以外の言語などの「外国語」の分野、心理学や教育学などの、高校の教科とはまた異なる分野の学問などもあります。

専攻分野の中には、科学史や科学哲学、あるいは環境情報学部などのような、理系・文系両方の知識を必要とするもの、データサイエンス(統計学)のように理系でも文系でも学生を募集しているようなものもあります。

ひとつ知っておきたいのは、大学で専攻する分野としての理系・文系と、受験で用いる科目、あるいは本校でのクラス分け・科目選択としての理系・文系には少々違いがあるということです。たとえば、理学療法や柔道整復などの分野は、医学の一種ではありますが、受験においては文系の科目のみを用いる、という場合もあるようです。芸術を専攻する場合も、本校では文系の科目を選択して受験をします。

どういった分野が「つぶしがきく」のか、あるいはどういった分野が最近は盛んになっているのかについては、当たり前ですが時代(学年)によっても異なります。相談や疑問点があったら、迷わず担任の先生に尋ねましょう。また、進路指導室でも、専門の視点から相談に応えることができます。興味があったら、1階の進路指導室をぜひ訪ねてみてください。



一般選抜について

皆さん、志望校の選定は進んでいますか？　知っているようで知らない各大学の特徴。一般選抜を目指す諸君は、ついつい受験科目や出題傾向との相性などで受験校を選定しがちですが、大学は4年間過ごす場所であり、多くの人にとって最終学歴となる場所です。学部・学科で学ぶ内容を確認することはもちろんのこと、面倒くさがらずにオープンキャンパスに足を運び、その大学を肌で感じることが大切です。悔いのない選択をしましょう。保善の卒業生からは「思わぬかたちで受験情報が得られた！」などという声も聞きますよ。

受験の方式はいろいろありますが、「一般選抜」という昔からある方式に挑む諸君もいると思います。一般選抜は、「自分で大学を選択し、自分の力で勝ち取ることができる」方式です。基本的にリストの中から選ばなければ「学校推薦型選抜」とはそこが大きな違いと言えます。いろいろな制約に縛られずに、合格すれば行きたい大学に行けるというのが最大のメリットと言えるでしょう。

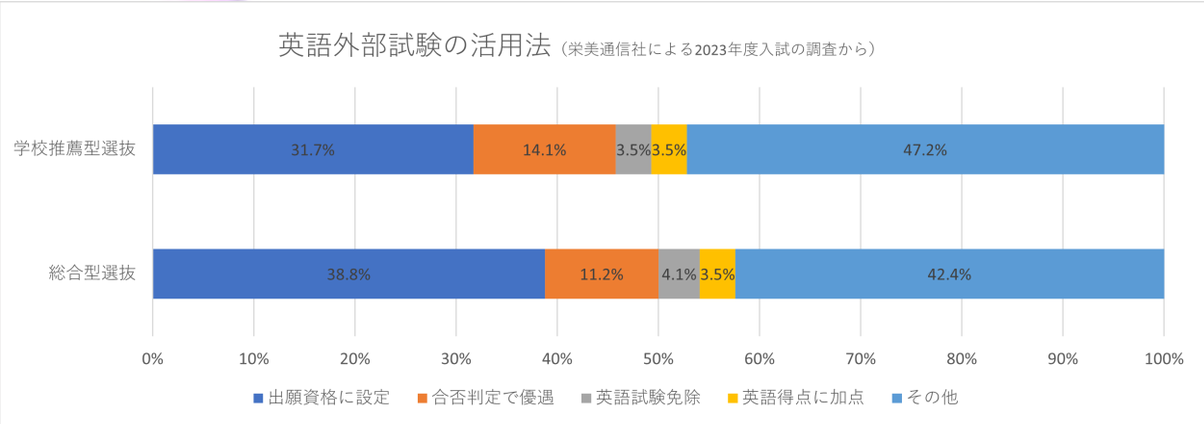
ところで、今、日本の大学入試は、大きな転換期を迎えています。3年生が挑む「令和6年度入試」を最後に、新たな入試がスタートするのです。それは「もうすぐ、新しい学習指導要領で勉強をしてきた高校生の入試が始まるぞ！」と言い換えてもよいでしょう。3年生は、2年生の履修科目を知っていますか？　例えば国語教科では、1年次に「現代の国語」と「言語文化」の2科目、その後は「論理国語」「文学国語」「古典探究」などを履修します。2年生はこれらの勉強で培った学力が、2年後の大学受験で試されるわけです。3年生に向けて説明するならば、諸君が履修してきた教科・科目で実施される一般選抜は「令和6年度入試」が最後。その後の一般選抜は、諸君が履修したことのない教科・科目で実施されるということです（移行措置がとられる場合もあります）。

この影響は小さくありません。ある大手予備校は、現在浪人中の受験生の動向にも大きな影響を与えると分析しています。浪人生が「自分の勉強が通用するのは令和6年度入試まで。最後のチャンスだ！」と捉え、必死に勉強に励むのみならず、受験校の幅を広げ、俗に言う「滑り止め」もかなり手厚く受験する(志望ランクを抑えて受験校を増やす)ようになることが予想されるというのです。もしかしたら3年生諸君の受験は、稀に見る激戦となるかもしれません。しかし、忘れないでください。どんな戦いにおいても、自分の原動力となるもの、自分を支えてくれるもの、それは「基礎力」です。一般選抜を目指す皆さん、どうか焦らず、コツコツと地道に、勉強の「基礎」を固めてください。

（写真右：いわゆる一般入試の光景。緊張感が伝わってきます）

英語外部検定の効果

先日、ある企業が主催する入試結果報告に出席しました。全国の大学に対して、昨年度の入試を踏まえて実施したアンケートの結果が提示されていました。興味深かった質問のひとつに「英語外部検定をどのように活用したのか」というものがあります(回答大学名や回答数は公表されませんでしたが、参考にはなろうかと思います)。総合型選抜では、「①出願資格に設定した」という回答が38.8%、「②合否判定で優遇した」が11.2%、「③英語試験を免除した」が4.1%、「④英語試験の得点に加点した」が3.5%、「⑤その他(奨学生の選定や活用しない等々の回答)」が42.4%という結果でした。総合型選抜に学力試験(筆記や口頭試問)が加えられるようになって数年が経ちます。それでもまだまだ英語試験を実施する大学は決して多くはないようです。③④の割合が低いのはそのためでしょうか。いずれにしても全体で57.6%の大学が何らかの形で「英語外部検定」を活用していることがわかります。一般選抜(特に私大)でも利用が拡大傾向にあり、例えば東洋大学では昨年の全志願者41,073人のうち、なんと20,146人(49%)の受験生が英語外部検定の得点換算を利用していたようです。なお、同大学では２級(CSEスコア1,980点)は入試の８０点に換算されます。同じ2級でも2,150点以上であれば90点に換算されます。受験当日に発揮する力もさることながら、高校生活の中で時間をかけて積み上げてきた英語学習の成果を評価したい、大学側のそんな意思が感じられますね。3年生は、志望校の合格を競う全国のライバルのことを想像してください。もしも志望校が積極的に英語外部検定を活用していたら？　ライバルがもしも英検のハイスコアの持ち主だとしたら？　きっとそのライバルは、君が英語の勉強に費やす時間をすべて他の科目の勉強に充当していますよ！　一刻の猶予もないのだと自覚しよう！　2年生は3年生に進級する前にどこまで英語力を向上させ、一つでも高い級を取得する、少しでもスコアを上昇させる、という意気込みを持ちましょう。資格検定というものは、言うまでもなく「大学入試」のためだけに存在するのではありません。取得した資格は大学を卒業した後にも影響します。高校生活で努力したことが、生涯にわたって自身を支えてくれる、そんな側面があることも忘れないでください。



ちょっとしたランキング

人物評価重視項目ベスト６

総合選抜型
１位　求める学生像への資質・可能性が認められる者
２位　活力・自主性・意欲の高い者
３位　第１志望としての入学熱意が強い者
４位　生徒会やクラブの役員経験などリーダーシップを発揮した者
４位　ボランティア・社会活動などの実績がある者
６位　全体の学習成績の状況が優れた者

学校推薦型抜型
１位　求める学生像への資質・可能性が認められる者
２位　活力・自主性・意欲の高い者
３位　全体の学習成績の状況が優れた者
４位　第１志望としての入学熱意が強い者
５位　生徒会やクラブの役員経験などリーダーシップを発揮した者
６位　ボランティア・社会活動などの実績がある者

面接質問内容ベスト６

総合選抜型
１位　志望動機
２位　志望学部・学科の理解と学習意欲
３位　入学後の抱負や計画
４位　高校調査書
５位　自己PR
６位　大学卒業後の希望進路（夢・職業・展望）

学校推薦型抜型
１位　志望動機
２位　高校調査書
３位　入学後の抱負や計画
４位　志望学部・学科の理解と学習意欲
５位　志望理由書
６位　大学卒業後の希望進路（夢・職業・展望）

＊総合型選抜と学校推薦型選抜では微妙に異なりますが、総合型選抜が入学後のヴィジョンが上位にくるのに対して、学校推薦型は高校時代の積み上げたものを中心に質問されたり重視されたりすることがわかります。

今年度の学習・進学指導部

進路指導室は2号館1階にあります。どうぞ気軽に扉を開けてみてください。進路関係の情報があるだけでなく、調べ物をするためのパソコンもありますし、隣には自習室もあります（自習室を使いたいときに鍵がかかっているときは、進路指導室の先生に声をかけてください）。赤本や大学のパンフレットも多数用意されています（赤本は貸し出せますが、コピーをとることはできません）。またこの時期は3年生が進路関係の相談で来室されますが、1，2年生の諸君も進路関係で相談したいことがある場合は、遠慮なく進路指導室に常駐している先生に声をかけてみてください。

左から、小関吉直*（英語科）、吉江実*（英語科）、貴家悠太（理科）、田中一夫*（英語科）、吉田忠裕（国語科）、野澤直紀（国語科）　、福岡麗子（英語科）、杉澤晋太郎（数学科）、中里謙佑（地歴科）、*印は進路指導室常駐教員。常駐ではない先生方は職員室にいます。

b r e a k

大学の学費がどのくらいかかるか考えてみたことはあるでしょうか。最新のデータ（文部科学省調査）によると、初年度にかかる費用は、国公立大学で817,800円、私立大学の文系で1,188,991円、私立大学の理系で1,566,262円、私立大学の医歯系で4,890,539 円となっています。医歯系は学費が高額になることはよく知られていますが、それ以外の私大の学費というものは高校生でも意外に知らないものです。もちろんこれ以外にも後援会費や同窓会費、寄付金などが加わってきますし、在学中に留学を考えている場合などもっと費用がかかります（留学は大学が用意するプログラムを利用することで抑えることも可能）。いやはや教育というものはお金がかかるものです。大学説明会のシーズンなのでさまざまな大学を訪れることがありますが、どの大学も設備は非常に立派で、自分が学生だった時のイメージとあまりにも異なっていてカルチャーショックのようなものを覚えることがありますが、恵まれた環境の中で学ぶには対価を払う必要があるということでしょうか。その対価を負担してくれる保護者のことを考えると、学ぶ立場の皆さんも中途半端な気持ちで進学してはいけないことがよくわかると思います。「お金のことは……」とは言いますが、18歳で成人するわけですから、大人として大学に進学する以上、知らないでは済まされません。大学に行くということは、その意味でもとても重いことなのです。